

42. 認知症高齢者を支えるための介護支援専門員の 支援の在り方に関する調査研究

○白木 裕子（NPO法人ケアマネット21 株式会社 フジケア）
中村 貴志（福岡教育大学 特別支援教育）
二本柳 覚（高知県立大学 社会福祉学部）

【研究目的】

認知症高齢者を支える家族を対象に、担当の介護支援専門員の対応等に関するアンケート調査を行うことにより、認知症高齢者の介護支援に係る課題を明らかにし、これらの課題を踏まえた質の高い認知症ケアのあり方について研究を行う。

【研究の必要性】

近年、介護保険制度の定着等により、認知症高齢者を取り巻く支援の社会化は大きく前進したとの評価がある一方、介護支援専門員が関与し、既に介護サービス等が導入されていたにもかかわらず、家族による殺害や無理心中などが起きている現状がある。

介護支援専門員は、他の専門職と連携して本人や家族の身体的、心理・精神的、社会的要因の変化を的確に把握し、適宜必要な支援を行うなど支援の中心的な役割を担っているが、実際には、サービスの提供ばかりに目が奪われ、本人や家族等の話をよく聞いていないなど、切実なニーズを見落とししているような状況もみられる。

そこで、認知症高齢者を支える家族から見た介護支援専門員の関わり状況を把握することにより、認知症高齢者の介護支援に係る課題を明らかにするとともに、これらの課題を踏まえた認知症ケアのあり方についての研究を行う。

【実施内容・結果】

1 調査の内容

北九州市内及び近隣市町村の在宅で認知症高齢者を支える家族の協力を得て、郵送によるアンケート調査と聞き取りによるアンケート調査を実施した。

（1）郵送によるアンケート調査

平成28年3月7日～平成28年3月25日に NPO 法人老いを支える北九州家族の会の会員を対象に215件の調査票を郵送し、123件の回答を得た。

（2）聞き取りによる調査

平成28年7月25日～平成28年8月20日に上記団体の会員を対象に10件の聞き取り調査を行った。

2. 郵送によるアンケート調査の結果

(1) 介護支援専門員の訪問頻度について

介護支援専門員一月あたりの訪問については、運営基準上、少なくとも一月に一回の訪問と面接が規定されていることもあり、1回の訪問が最も多かった。ただし、認知症高齢者の支援に関しては緊急に解決すべき課題も多いことから、2回、3回以上の訪問も見られた。その一方、運営基準違反に当たる「訪問なし」が約4%あった。

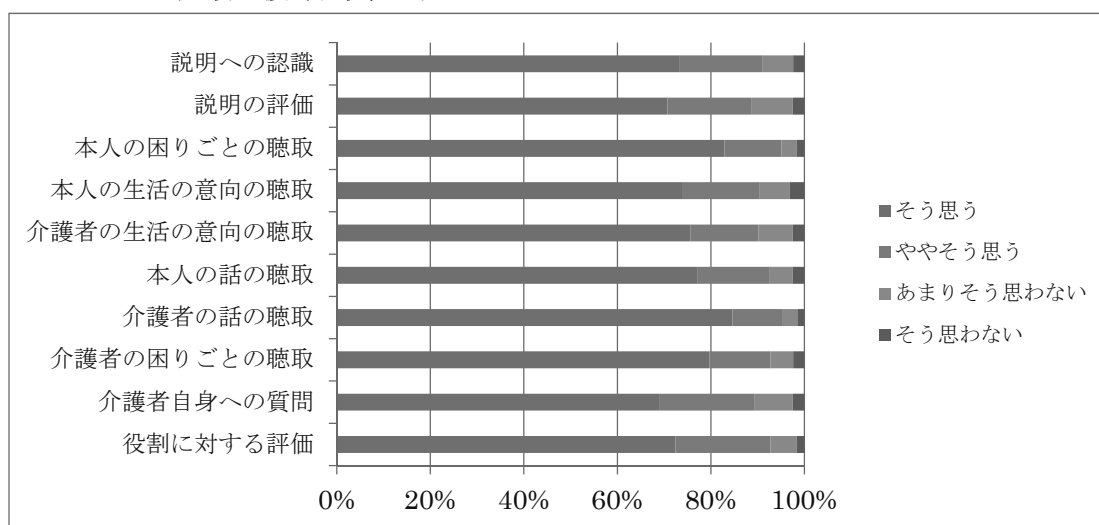
表1 一月あたりの介護支援専門員の訪問頻度

訪問頻度	1回	2回	3回以上	訪問なし	その他	無回答	合計
実数	80	18	5	5	13	2	123
割合(%)	65.0	14.6	4.1	4.1	10.6	1.6	100.0

(2) 担当の介護支援専門員の対応について

認知症高齢者等の介護者が、担当の介護支援専門員の対応をどのように受け止めているのか、「介護支援専門員の役割について十分な説明があったか」、「訪問時に本人の話をよく聞いてくれるか」など次の10項目について調査を行った。

図1 担当の介護支援専門員の対応

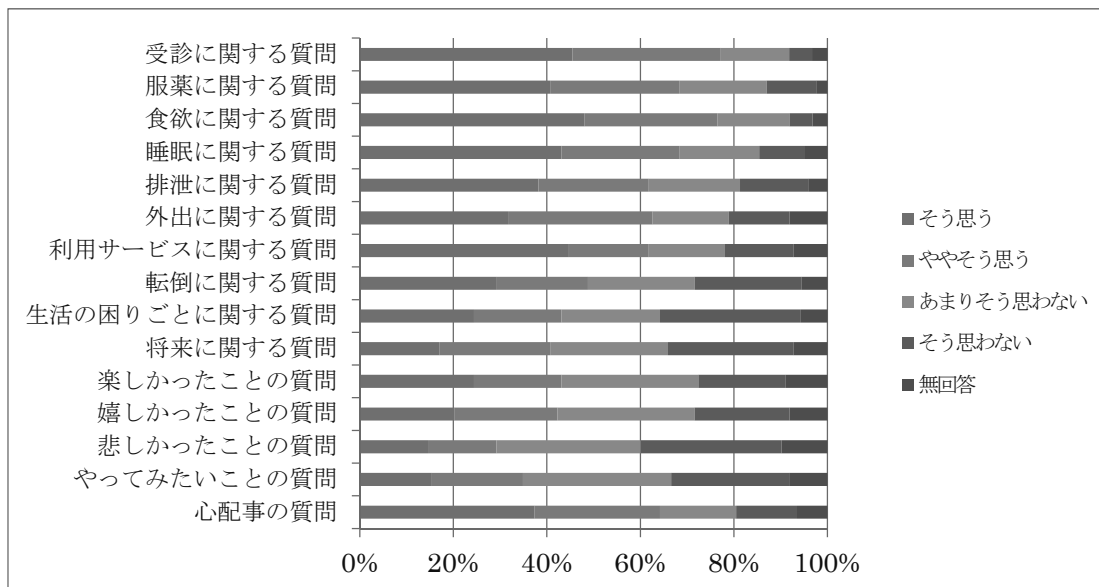


全ての項目に関して、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせると9割以上が適切な対応がなされていると受け止めていることが分かった。しかしながら、「そう思わない」と否定的な見解を有している介護者がいずれの項目に関しても2%程度みられた。

(3) 担当の介護支援専門員が訪問時に行う本人に関する質問について

担当の介護支援専門員が行う支援の中で、認知症の高齢者に対して、「本人の受診の状況に関する質問がなされているか」、「この1月で本人が楽しかったことについての質問がなされている」など、具体的にどのような質問や声かけが行われているか、次の15項目について調査を行った。

図2 担当の介護支援専門員が訪問時に行う本人に関する質問



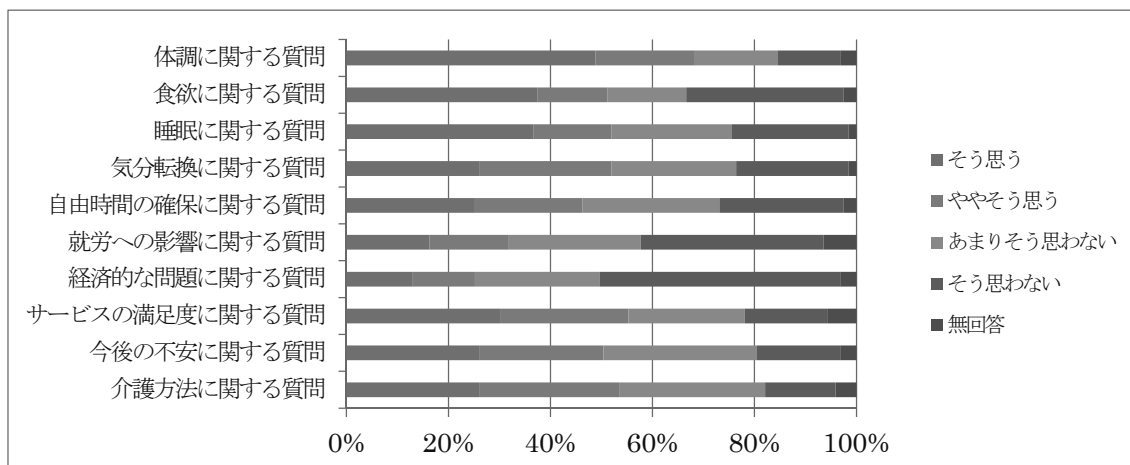
受診、服薬、食欲、睡眠、排泄など本人の体調や健康面に関する質問や外出、利用サービス、転倒、生活の困りごと、将来についてなど生活に関する質問は、モニタリングで確認してサービス等の見直し等へ反映すべき項目であるが、必要な質問や声かけが行われていないとされる割合が1割から3割程度見られた。

また、楽しかったこと、嬉しかったこと、悲しかったことなど、本人の心理面への質問についても質問や声かけが行われていないとされる割合が2割から3割程度見られた。

(4) 担当の介護支援専門員が訪問時に行う介護者に関する質問について

担当の介護支援専門員が行う支援の中で、介護者に対して、「介護者の体調に関する質問がなされているか」、「介護者の今後の不安に関する質問がなされている」など、具体的などのような質問や声かけが行われているか、次の10項目について調査を行った。

図3 担当の介護支援専門員が訪問時に行う介護者に関する質問



介護者に対する質問については、本人への質問と比較して必要な質問や声かけ等がなされているとは思わないとする割合が総じて高くなっており、特に経済的な問題については約5割、介護負担による就労への影響についても約4割が行われていないと認識していることが分かった。

3. 訪問調査の結果

(1) 介護者の抱える不安（経済的・誤嚥・排泄・就労等）について（意見の抜粋）

- ・昨日までできていたことができなくなるなど、母が壊れていくのを、娘として受け入れられなかった。
- ・私が倒れたらアウトなので、無理しないように手を抜いている。
- ・入所も考えたが、本人の年金が10万円では入所先がない。今後も続く介護について「早く死んでくれれば良いのに。」と思う自分がある。
- ・毎日地獄の中で生活しているようなもんよ。「うんこまみれ」になったからといって、自分でやるしかないやろ。

(2) 医療や社会保障制度等について（意見の抜粋）

- ・往診してくれる医者を探すのに苦労した。往診する医者は少ない。医師会や区役所に電話して、2か所くらい教えてくれたが、あとは自分で探した。
- ・義母のかかりつけ医は内科であったが、相談にのってもらえず憤りがある。
- ・就労しているときは、ショートステイを利用していたが、意識レベルは低下するし、オムツかぶれはするし、けがのないように、事故のないようにとそればかりでじっとさせておくので、呆けて帰ってくる。

(3) 介護支援専門員に関すること（意見の抜粋）

①満足していること

- ・何か困ったことがあったらすぐに訪問してくれた。
- ・ケアマネは月1回の訪問時に、本人や介護者の話をよく聞いてくれた。一緒になって考え寄り添ってくれた。ケアマネに話すことで気分転換になった。

②不満に感じていること

- ・担当者会議時に、本人の前で、「おもらしした」等、本人の尊厳を傷つけるような発言や話題はやめてほしい。母が嫌な思いをしているのだろうとそればかりが気になった。
- ・以前はよく話を聞いてくれていたが、人が替わってから来て印鑑だけ押すとすぐに帰る状態。

③介護支援専門員への要望等

- ・経済的な負担が軽くなる社会保障制度等は最低教えてほしい。経済的な相談に乗ってほしい。
- ・ケアマネに話すことで気分転換になる。話をよく聞き、一緒に考え寄り添って欲しい。
- ・ケアマネジャーは能力に差があると思う。

【考察と今後の課題】

今回の調査で、本人に対して健康や生活に関すること、本人の心理面などについて必要な質問や声かけが行われていないとされる割合が1割から3割程度見られたことについては、課題の把握が行われていないか、尊厳の保持が守られていないか、いずれかの問題点があると推測される。

介護者は、それぞれが覚悟を持って介護を続けている現状があり、介護支援専門員に対して「辛い気持ちをわかって欲しいし、寄り添って欲しい。」など、心理的な支援に対して高い期待を有している。しかしながら、実際には、介護者に対する声かけは十分に行われていないことが明らかとなっており、よく相談にのってくれて頼りになる介護支援専門員とそうでない介護支援専門員の差が大きくなっているとみられる。

介護支援専門員の能力や対応の差にあることは、利用者本人や家族も既に認識していると思われるが、力量を有する介護支援専門員は容易に選べるものではなく、「当たりはずれがある」とあきらめている現状が伺えた。

介護支援専門員の能力については、経験年数等により知識や技術に一定の差が生じることはやむをえないと考えられるが、対人援助職として利用者や家族の気持ちに寄り添った支援を行うことは能力のみの問題ではない。

今後、一層進展する高齢化に対応し「地域包括ケアシステム」を着実に推進していくためには、介護支援専門員の役割はさらに重要であり、サービス調整のみならず、対人援助職としての質の向上を図っていくことが不可欠である。

【経費使途明細】

会議費（@3,000円×6回）	18,000円
諸謝金 調査票作成料、報告書筆耕料 @20,000円 調査結果の分析 @120,000円 ヒアリング対象者への手土産等（10件分 11,382円）	151,382円
消耗品費 調査用封筒、データバックアップ用記録媒体、事務用品	28,453円
旅費・交通費 分析打合せ旅費 高知－北九州 2回 74,060円 ヒアリング調査交通費 @1,500円×22回 33,000円 会議参加交通費 @1,500円×6回×10人 90,000円	197,060円
印刷費 調査票、報告書印刷費	21,600円
通信費 アンケート調査票郵送料	34,400円
合 計	450,895円
大同生命厚生事業助成金	300,000円